様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月　１ 日現在

機関番号：１１５０１
研究種目：基盤研究(C)（特設分野研究）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５ＫＴ０１２６

研究課題名（和文）医療紛争発生機序と説明義務のナラティヴ分析

研究課題名（英文）Narrative Analysis of the Mechanism of Medical Conflict and Accountability

研究代表者
中西　淑美（Nakanishi, Toshimi）

山形大学・医学部・准教授

研究者番号：２０４２０４２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はインフォームド・コンセント(以下IC)の背景面と内容面等の要因を基に、説明と同意をめぐる医師患者双方の認知過程の構成と訴訟における法的な説明義務の構成を相関させつつ、現実のIC過程の動態機序仮説の構成と検証を目的とした。方法は、実際の医療現場におけるIC過程のデータの獲得と分析、ICにおける「十分な説明」の構築および紛争生成機序の検討、判例分析、ナラティヴ分析とした。結果は、具体的な患者像に寄り添う受容と共感を基に協働意思決定のある説明過程の存在が明確となった。また、医療メディエーション概念によるICの対話過程が、患者と医師の理解度も満足度も高く協働意思決定過程があることが評価された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
医師・患者関係における、より良い説明とIC過程について、患者・医師双方の立場から、入院や手術時での短期精神ストレスや満足感、意思決定、不安などを明らかにした。紛争や訴訟になるケースの多くは、説明義務が医療行為を点で考え、線として継続的な患者への説明が不足していた。患者が主体のより良いICのためには、患者にとって必要と思われる情報について、慎重に判断・確認して説明するためのIC概念が必要である。具体的には、患者に寄り添うことが出来る受容と共感の協働意思決定の双方向性がある対話過程や臨床倫理の視点のあることがICには必要で、救急・臓器移植のICや重症対応メディエーターの教育プログラムを作成した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to construct and test the hypothesis of the dynamic mechanism of the actual informed consent (IC) process by correlating the structure of the cognitive process of both physicians and patients regarding the explanation and consent and the structure of the legal obligation to explain in lawsuits, based on factors such as the background and content of IC. The methods used were: acquisition and analysis of data on IC processes in actual healthcare settings, construction of sufficient explanations in IC, examination of conflict generation mechanisms, precedent,and narrative analysis. The results clearly showed the existence of an explanatory process with collaborative decision making based on acceptance and empathy for the specific patient. In addition, the interaction process of IC with the medical mediation concept was an evaluation of the collaborative decision-making process with high levels of understanding and satisfaction between patients and physicians.

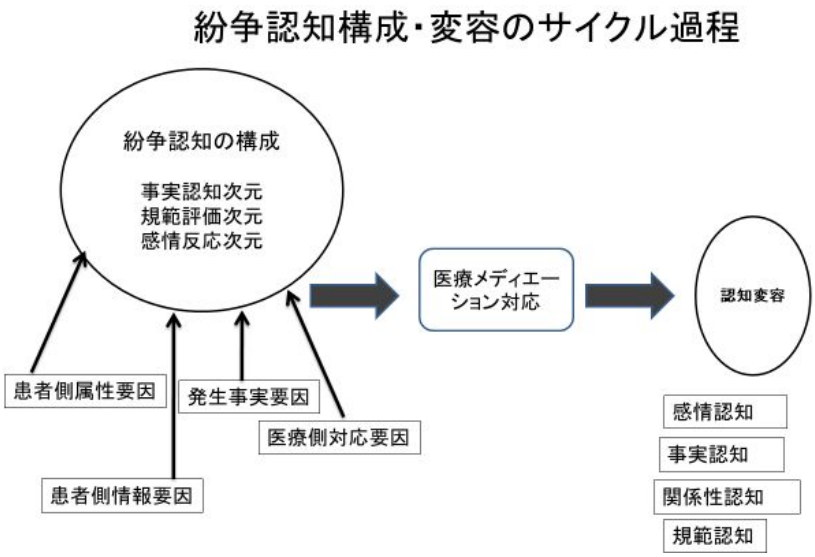
研究分野：医療紛争・裁判外紛争処理（医療メディエーション）・臨床倫理・平和構築学

キーワード：インフォームド・コンセント　ナラティヴ　対話過程　医療紛争の生成と予防　説明義務

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

インフォームド・コンセント(以下 IC と称す) 、「説明と同意」 の普及とともに、医師の IC に関連する説明義務違反は医療事故訴訟の中でも多くを占める重要な争点となっている。この IC の要件は判例基準では「十分な説明」である。これは、医学情報の何をどこまで説明すべきか、という説明範囲として理解されている。紛争分析的に IC を考えると、(1)診断・治療・予後の説明の何が強い影響を持つか（内容面)、(2)医師の態度や信頼度の影響（背景要因)、(3)説明義務違反の規範要因、(4)医師・患者間での IC の擦れ（情報理解要因）が認められる。IC の「十分な説明」や４要因は、突き詰めると、どちらも IC 過程にある。この過程の分析が IC の「十分な説明」を具体的に明らかにすると考えられる。



２．研究の目的

法社会学的研究アプローチと異なる心理学・行動学の観点から、実際の IC 過程の動態を検証し、それに基づく紛争予防のあり方の提言までを目指すことを目的とした。

３．研究の方法

人に関する研究では山形大学医学部倫理委員会及び毎回個別同意書を取得した。

１）実施 IC 過程の心理学的・生理学的・質研究

研究期間は 2016～2018 年とした。対象は予定手術の人工股関節全置換術患者と執刀医とした。(1)短期精神ストレスの評価指標として、副交感神経活動が反映される唾液アミラーゼの pH を測定した。(2)緊張や不安状態の評価として STAI、満足度ファイススケール、POMS 尺度、ストレスコーピング、インタヴュー（ライフヒストリー・自己エスノグラフィ）調査を用いた。(3) 参与観察した。「記述のコード化（構造×実存性） 」「理論構築（構造×理念性） 」「記述の意味づけ（過 程×理念性)」整理を実施し検討した。

２）IC 過程への介入タイプ別の影響研究
① 医師と患者のみの IC、② ①に加えて看護師同席時の IC、③ ①に加えて医療メディエーター同席による IC の質と量の混合研究にてこれらの差を分析した。
３）IC 説明モデルの質的研究
整形外科手術実施前後で、医師・患者被験者双方に、IC における説明の十分さ、内容の的確さなどについて評価し、手術終了後に IC の説明パターンの意義を分析した。
４）説明義務違反と説明義務の判断基準の論拠の分析
医事紛争における民事訴訟判決の判例（1976 年 10 月 1 日～2012 年 10 月末）を対象に判断基準を分析した。
５）医療メディエーションモデルの IC 影響分析
1)～4)を基に作成した説明モデルを実施し、患者満足度調査と共に、医師からの評価について、インタヴュー調査と参与観察を実施し、テキストマイニング分析等で検証した。

４．研究成果

１）患者では、ストレスコーピングは個人差があるが、特性不安は一定しており入院時が最も高かった。手術の IC では、「受け止め」、「情報の相互交換」、「振り返り」、「自律・意思決定支援」が医師によって行われると、手術時の不安は減じ、満足感は高くなった[1)]。医師では IC 実施時のストレスは、専門医や経験年数の高い医師では、患者や医療技術ではストレスは少なかったが、医師の診療業務以外の間接業務による短期精神ストレスが常にあること、それを医師自身がマネジメントできることがより良い説明につながることが示された。この成果は人工股関節学会で発表し、論文にまとめた[2)]。
２） ①の IC では認知的共感と情動的共感のバランスが重要なことが明らかになった[3)]。また、経験年数が高く熟練の医師はこのバランスを巧みに行なっていた。このバランスは IC に関する紛争予防に寄与する可能性が示唆された。②と③からは患者の納得や満足という患者の主観的側面で効果を認め、また、医療者・患者双方の心理的ストレスの減弱という生理的側面からも効果が認められた。IC の患者満足度調査によって、医療メディエーションは、IC において患者のストレスを減らし、場を和ませることで、より満足度の高い IC にできていた。また、患者と医師とお互いの情報共有を促進させる効果があった。また、相互対話のある同席か、相互対話のない同席かによって、笑顔・緊張などの短期心理ストレス等、快・不快の情動に影響があることも判明した。
３）表１に現在行われている IC の方法の問題点をまとめた。この研究で用いた説明モデルはこれらとは異り、受容と共感を伴う患者・医師間の双方向的協働意思決定に向けた説モデルで、有効なことが示された。このモデルを実施した IC のテキストマイニング分析結果は、患者の納得や満足という患者の主観的側面で効果を認め、また、医療者・患者双方の心理的ストレスの減弱という生理学的側面からも効果が認められた。論文にまとめて投稿予定である。

	分類	問題点
インフォームド・コンセントの方法	正しいICとして合理的患者を想定した定型文によるIC	一方的な手順としてのIC
	やさしい平易な言葉によるIC	誤解が生ずるIC
	業務プロセスとしてのIC（確認・対話教育）	双方向の対話過程か否か
	法的な水準を鑑みた文書によるIC	防御化したIC
	従来のICに看護職員などが立ち合う	形骸化しやすいIC

表1　インフォームド・コンセントの問題点

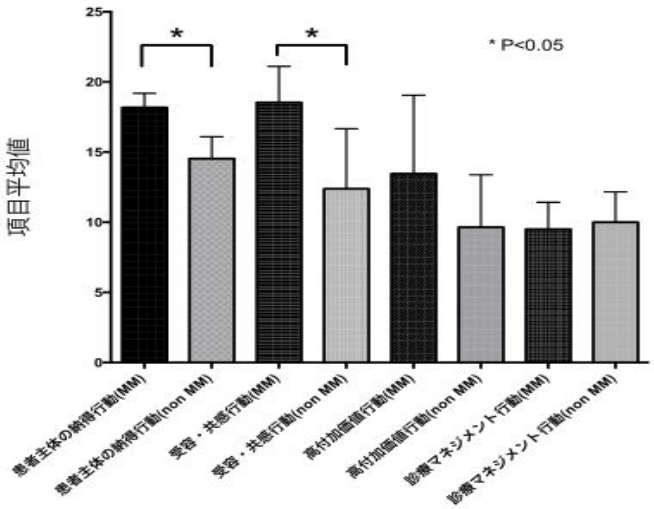


図1　患者満足度の主観的分析の評価

（文献１の筆者の論文より引用）

４）訴訟になるケースの多くは、説明義務が医療行為を点で考え、線として継続的な患者への説明が不足していた。さらに、IC における自律尊重の重要性が示唆された[4)]。倫理メディエーションとして論文にした。

５）医師は受け手と聞き手双方の安心感と説明の理解が進んだという肯定的な評価をした。

以上のことから、医療メディエーションは IC 時の対話推進のツールとして有用な説明モデルであることが示唆された。現在、教育プログラムを作成し、救急・臓器移植の IC や重症対応の IC の評価を筑波大学にて試行中である。

６）４)の判例研究からは、現在の IC がピンポイントでの説明、つまり、「点」であることが示された。IC の主語は医師ではなく、患者であり、説明は医師と患者の病気と治療の相

互理解のための過程、「線」である。Appelbaum の IC 理論のイベントモデルとプロセスモデルにもあるように、「十分な説明」には IC が点から線に変化することが求められる[5)]。今回の研究成果により、この「線」を作り出す説明モデルとして医療メディエーションモデルを設けた。医療メディエーションとは、「価値を認め合う相互作用のある対話の“場（プロセス）”が構築されるための概念」である。これを満たす説明モデルとして IC の医療メディエーションモデルを作成した。このモデルは患者と医師の双方において有用であることが示唆された。対話的な関係の IC は、自らの理解とその理解をするための観察データからの意味とを対話させることで、意味が関係の中から生み出され、より良い関係が構築した。以上から、基本的な IC 教育が医師に必要であると推察された。

今回、これらの研究結果をふまえて、今後も、紛争予防や医療の質の向上のための IC にむけた倫理教育、医療メディエーション教育の向上のために、更なる医療者教育での、新たな研究と実践による検討と研鑽を積んでいきたいと考える。

＜引用・参考文献＞

１）中西淑美：医療メディエーションによるインフォームド・コンセントは患者満足に良い効果を及ぼす.,医療コンフリクト・マネジメント；2015,Vol.4,11－20

２）中西淑美，伊藤重治，高窪裕弥，高木理彰：人工股関節置換術時の医師のストレス評価の予備検討．日本人工関節学会誌，2019；49（12）：563-564

３）Vinay KM, Swanand: P. Assessment of empathy among undergraduate medical students. J Educ Technol Health Sci. 2016;3(1):23-27.

４）Cordasco, KM :Chapter 39 Obtaining Informed Consent From Patients: Brief Update Review　Making Health Care Safer II: An Updated Critical Analysis of the Evidence for Patient Safety Practices. Rockville (MD):Agency for Healthcare Research and Quality (US);2013Mar. (EvidenceReports/Technology Assessments, No. 211.

５）Appelbaum P., Lidz C. & Meisel A. eds. *Informed Consent: Legal Theory and Clinical Practice,* Oxford Univ. Pr. 1987

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計21件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 中西淑美	４．巻 1
２．論文標題 医療安全管理従事者のストレスコーピングと自己効力感の調査.	５．発行年 2018年
３．雑誌名 医療コンフリクト・マネジメント	６．最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 1
２．論文標題 日常的に使われる「ちょっと,もうすぐ,し ばらく」に対する患者と医療従事者との認識の差.	５．発行年 2018年
３．雑誌名 医療コンフリクト・マネジメント	６．最初と最後の頁 43-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 4(481)
２．論文標題 臨床倫理メディエーション講座11	５．発行年 2018年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 5(482)
２．論文標題 臨床倫理メディエーション講座12	５．発行年 2018年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 42-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 6(483)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション講座13	5．発行年 2018年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 7(484)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション講座14	5．発行年 2018年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 9(486)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション講座15	5．発行年 2018年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 10(487)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション講座16	5．発行年 2018年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 12(489)
２．論文標題 臨床倫理メディエーション講座17	５．発行年 2018年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 1(490)
２．論文標題 臨床倫理メディエーション講座18	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 46-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 2(491)
２．論文標題 臨床倫理メディエーション講座19	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 3(492)
２．論文標題 臨床倫理メディエーション講座20	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 34-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 5)長島久，東良平,永井弥生,村山博和，渡邊良平,志賀 隆,中西淑美,;和田仁孝	4．巻 5
2．論文標題 医師・歯科医師を対象とした医療コンフリクト・ マネジメント教育プログラム策定に向けた検討 ―医療対話推進者養成講座基礎編を修了した 医師・歯科医師に対するアンケート調査の結果から	5．発行年 2017年
3．雑誌名 医療コンフリクト・マネジメント	6．最初と最後の頁 41‐48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森田恵美子,杉浦良啓,中西淑美	4．巻 32
2．論文標題 看護師長の共感学習が組み込まれた医療メディエーション研修効果とその要因検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 陶生医療	6．最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高野輝久,岡治道,中西淑美,瀬戸一哉,澁谷純一,仲田千紘,井上多恵,真辺朋子,岩井完,加藤邦太	4．巻 64
2．論文標題 さいたま医療訴訟　医療紛争拡大防止の模索-パネルディスカッション2016	5．発行年 2016年
3．雑誌名 医療判例解説	6．最初と最後の頁 14-18,32.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 第４巻
2．論文標題 医療メディエーションによるインフォームド・コンセントは患者満足に良い効果を及ぼす	5．発行年 2015年
3．雑誌名 医療コンフリクト・マネジメント	6．最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田雪美,中西淑美	4．巻 第4巻
2．論文標題 医療安全管理者による医療メディエーションの習熟は情報共有・意思決定の対話過程を促進する	5．発行年 2015年
3．雑誌名 医療コンフリクト・マネジメント	6．最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美,杉浦良啓	4．巻 第4巻
2．論文標題 医療メディエーションは患者の交感神経活動を和らげる	5．発行年 2015年
3．雑誌名 医療コンフリクト・マネジメント	6．最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 No.456
2．論文標題 倫理メディエーション	5．発行年 2016年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 26-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美，伊藤重治，高窪裕弥，高木理彰	4．巻 49（12）
2．論文標題 人工股関節置換術時の医師のストレス評価の予備検討	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本人工関節学会誌	6．最初と最後の頁 563-564
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 Vol.58(1)
２．論文標題 臨床能力としてのインフォームド・コンセント	５．発行年 2018年
３．雑誌名 岩手県立病院医学会雑誌	６．最初と最後の頁 75-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計26件（うち招待講演　8件／うち国際学会　7件）

１．発表者名 中西淑美,伊藤重治,高窪祐弥,高木理彰:
２．発表標題 人工股関節置換術時の医師のストレス評価の予備検討.
３．学会等名 第49回日本人工股関節学会,東京；2019年2月15日
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakanishi.T
２．発表標題 Informed consent by medical mediation gives good effect to patient satisfaction. (Symposium Theme: Non-Adversarial Approach to Medical Malpractice Disputes).
３．学会等名 2018 Asian Law and Society Annual Association (ALSA) at Bond University, Australia; 30th Nov 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーションはインフォームドコンセントでの対話を促進する.
３．学会等名 第50回日本医学教育学会,2018年8月5日
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakanishi.T
２．発表標題 Informed consent by medical mediation gives good effect to patient satisfaction.
３．学会等名 International Annual Conference of The Law & Society Association,Toronto; 8th June 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakanishi Toshimi
２．発表標題 Restorative significance in medical mediation
３．学会等名 Asian Law and Society ,Taiwan,Dec.16 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nakanishi Toshimi
２．発表標題 Healthcare Workers' Perceptions of Apology, Judicial Function, Dialogue with Patients, and Patient Safety/Medical Quality in case of a Medical Adverse Event
３．学会等名 International Annual Conference of The Law & Society, Mexico, June 23 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 知情意の未来―協働へ向けて
３．学会等名 第7回日本医療コンフリクト・マネジメント学術集会：2018年2月3日（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 看護職のコンフリクト・マネジメントにおける実態調査－協働阻害要因
３．学会等名 第19回日本医療マネジメント学会,仙台：2017年7月8日
４．発表年 2017年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーション教育が医師専門職意識に与える効果
３．学会等名 第49回日本医学教育学会,札幌：2017年 8月16日
４．発表年 2017年

１．発表者名 杉浦良啓，森田恵美子,中西淑美
２．発表標題 言語の共言葉の再起ネットワークを用いた医療メディエーション対話の可視化
３．学会等名 第7回日本医療コンフリクト・マネジメント学術集会，山形；2018年2月3日
４．発表年 2017年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーションはインフォームド・コンセントの相互理解を促進する.
３．学会等名 第7回日本医療コンフリクト・マネジメント学術集会，山形；2018年2月4日
４．発表年 2017年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 インフォームド・コンセントに医療メディエーション概念を活用する．
３．学会等名 第145回日本小児科学会静岡地方会，静岡；2018年3月25日
４．発表年 2018年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 臨床能力としてのインフォームド・コンセント．
３．学会等名 岩手県立病院医学会新規学術集会，岩手；2018年1月29日
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakanishi　Tsohimi
２．発表標題 Medical mediation education trainning survey of participants.
３．学会等名 International Forum on Quality & Safety in Health Care 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Nakanishi Toshimi
２．発表標題 Who should take responsibility for risk ?：Japan's drug and vaccination polisy in global settings.
３．学会等名 Law＆Society Academic Meeting 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 臨床倫理メディエーション
３．学会等名 日本医療メディエーター協会学術集会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーションとは何かー和解を可能にするナラティヴアプローチ
３．学会等名 近畿司法書士連合会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 地域医療に活かす医療メディエーション―人と人をつなぐコミュニケーション
３．学会等名 第56回国保連合会学術集会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 臨床からみたインフォームド・コンセントのあり方‐患者は医師に何を求めているか‐
３．学会等名 第48回日本医学教育学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 成田雪美,中西淑美
２．発表標題 医療安全管理者がコンフリクト・マネジメントとして医療メディエーション概念を用いることは効果がある
３．学会等名 第11回日本医療の質・安全学会学術総会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Nakanishi T
２．発表標題 Medical mediation education training - Survey of participants-
３．学会等名 International Forum on Quality and Safety in Healthcare,2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 循環器救急現場における医療対話の重要性,医療メディエーション
３．学会等名 第35回CCU学会研究会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療ADRと医療裁判
３．学会等名 第１回医療裁判における医と法の弁護士懇話会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 愛媛県医師会研修医ワークショップ－医療コンフリクト・マネジメント
３．学会等名 愛媛県医師会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療コミュニケーション
３．学会等名 福島県医療マネジメント学会福島地方会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 無意図的有害事象の原因情報開示は医師再評価に良い効果をもたらす
３．学会等名 第46回日本医学教育学会
４．発表年 2015年

〔図書〕　計5件

１．著者名 豊田愛祥,太田勝造,林圭介,斉藤輝夫編,(中西淑美著：「もうひとつの医療ADR－「医療メディエーション」という和解論」 417-450頁執筆,所収	４．発行年 2018年
２．出版社 信山社	５．総ページ数 529（417-450頁所収）
３．書名 和解は未来を創る	

１．著者名 中西淑美,阿部昌樹,和田仁孝編	４．発行年 2016年
２．出版社 法律文化社	５．総ページ数 147頁（134頁-137頁）
３．書名 新入生のためのリーガル・トピック50.	

１．著者名 早稲田大学・震災復興研究論集編集委員会（編）,和田仁孝,西田英一,中西淑美	４．発行年 2015年
２．出版社 早稲田大学出版部	５．総ページ数 1003頁（169－177頁所収）
３．書名 震災後に考える．原発事故をめぐる被害の構造と認知－浪江町住民調査の結果から－	

１．著者名 我部山キヨ子,毛利多恵子（編）, 和田仁孝,中西淑美	４．発行年 2015年
２．出版社 医学書院	５．総ページ数 182 頁（73-83頁所収）
３．書名 助産学講座10 第4版 助産管理,第3章 周産期管理システムとリスクマネジメント	

１．著者名 阿部昌樹,和田仁孝（編）,中西淑美	４．発行年 2016年
２．出版社 法律文化社	５．総ページ数 149頁（134-137頁所収）
３．書名 新入生のためのリーガル・トピック５０	

〔産業財産権〕

〔その他〕

現在、ICの研究のまとめとして投稿中の論文が2つ投稿予定である。また、若い医師向けに、今回の研究を基に単著を公刊予定である。（国際共著の法社会学のRisk and Responsibility in Japan's Vaccination Policies. University of British Columbia Press.（共同執筆者の脱稿待ちの公刊予定）総頁29頁の予定がある。）

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考